

2013年 4月
AGCコーテック株式会社
CSR本部
TEL:03-5217-5104

今回から、「CSR(企業の社会的責任)」に関連した情報をまとめ、「CSR情報通信」として発行いたします。(1回/3ヵ月の予定)

◆ CSRとは

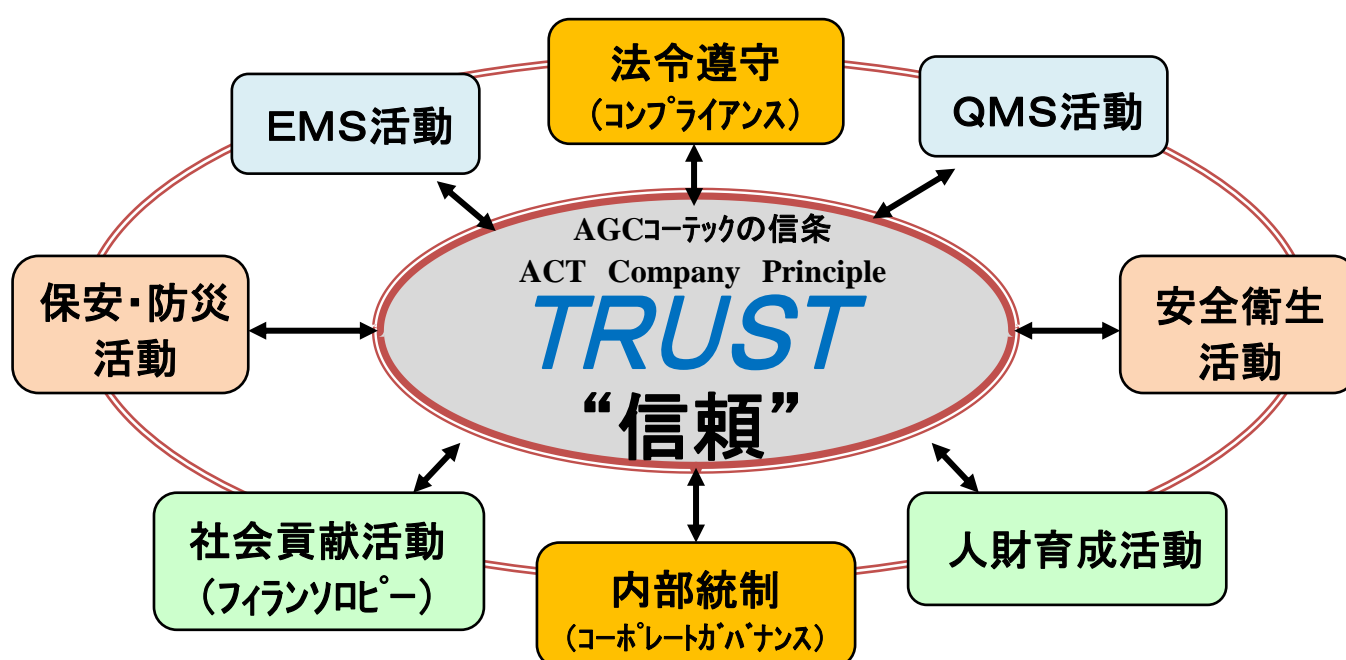
CSR = Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任

近年における世界の潮流をみると、グローバル化や情報技術の発展、国際市場における競争激化、消費者・顧客、NGOなどから企業行動への厳しい批判などを反映して、欧米をはじめ、日本においても、企業の社会的責任(CSR)に対する関心が急速に高まり、広範囲に拡大しています。

「CSR」とは、「企業が社会の一員として、社会に対して果たすべき役割と責任」を意味しています。つまり、企業が社会の一員として、社会と企業の持続的発展を目指して、経営戦略の中核に位置付け、さまざまなステークホルダーとの相互交流を深め、経済・環境・社会問題について、社会の信頼を得るために果たすべき自主的取組みである、とまとめることができます。

◆ AGCコーテックの取組み

AGCコーテックは、社会から「信頼」される企業であり続けるために、「TRUST(信頼)」を「信条」として掲げ、事業運営の基軸に据えました。また、この「信条」に基づく8つのCSR活動を継続的に行うことが大切であると考えています。



◆ CSR に関連した用語

CSR に関連した一般的な用語の解説を以下にまとめました。

ISO (International Organization for Standardization) = 国際標準化機構

スイスにおける法人格を有している非政府機関であり、国家標準化機関の連合(1947年設立)で、工業品などの国際規格を制定する国際組織である。

例: 品質管理のISO9001(QMS)、環境管理のISO14001(EMS)、社会的責任のISO26000

SRI (Socially Responsible Investment) = 社会的責任投資

一般的に、収益性や成長性などの財務分析に加えて、社会性や倫理性も考慮して社会貢献度の高い企業を選別・評価する投資活動をいう。

社会的責任の評価基準の例としては、法令順守、労働等組織内の問題だけでなく、環境、雇用、健康・安全、教育、福祉、人権、地域等さまざまな社会的問題への対応や積極的活動が挙げられている。

京都議定書 (Kyoto Protocol)

1997年12月に京都市の国立京都国際会館で開かれた第3回気候変動枠組条約締約国会議(地球温暖化防止京都会議、COP3)で同月11日に採択された、気候変動枠組条約に関する議定書である。地球温暖化の原因となる、温室効果ガスの一種である二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)等について、先進国における削減率を1990年を基準として各国別に定め、共同で約束期間内(2008年から2012年まで)に目標値を達成することが定められた。

京都議定書の定める2012年以降の枠組みについては、「ポスト京都議定書」として国際的な話し合いがされている。

コーポレート・ガバナンス (Corporate Governance) = 企業統治

企業経営に際して、経営の意思決定を透明性、迅速性をもって行うとともに、経営者の事業経営を適切に監督・評価し、動機付けを行っていく仕組みのこと。

CSRの視点からは、経営者の不正行為、従業員の違法行為などの防止や、広報活動などによる経営の透明性の確保、ステークホルダー(利害関係者)との良好な関係の維持など、企業の持続的発展を担保する仕組みを意味する。

コンプライアンス (Compliance) = 法令遵守

コンプライアンスは、狭義には「法令遵守」を意味するが、最近では、コンプライアンス体制の整備を包含して「法令遵守や社会諸規則・業務マニュアルの遵守に加えて、社会規範、倫理の遵守」を含めて、広い意味で使われている。

サプライチェーン・マネジメント (supply chain management)

企業が取引先との関係で、**資材調達、生産、発注、販売管理、在庫管理、リサイクル**までの一連の流れ（サプライチェーン）を一つの組織体のように総合的に管理することをいう。

CSRの推進においては、関係企業における**法令等遵守、品質管理、人権尊重、公正な労働条件、環境保全対策**などへの取組みを求めている。

持続可能性 (sustainability) = サステナビリティ

組織が、**経済、環境、社会**の3つの側面(トリプル・ボトムライン)における活動を**バランスに配慮しながら、持続的に発展**することをいう。

特に、**地球の環境許容量への配慮**を強く意識する考え方である。

循環型社会 (recycling-based society)

有限である資源を**効率的に利用**するとともに**再生産**を行って、**持続可能な形で循環**させながら利用していく社会のことをいう。

その基本は、いわゆる「**3R**」— **廃棄物発生**の抑制(reduce)、**製品の再使用**(reuse)、**再利用**(recycle)—とされている。

ステークホルダー (Stakeholder) = 利害関係者

企業の経営活動の存続や発展に**何らかの利害関係**を有する主体をいう。

具体的には、**消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、仕入先、得意先、地域社会、行政機関**など。

さらに、**ステークホルダー・マネジメント**は、企業を取り巻く内外の利害関係者との**良好な関係を築くこと**により、企業の経営変革を促進して、**持続的に発展させる経営手法**をいう。

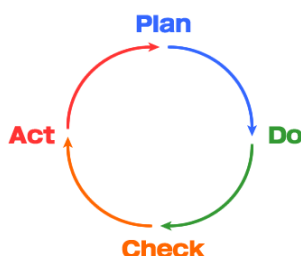
誠実 (integrity) = インテグリティ

インテグリティは一般的に、「**誠実さ、高潔、清廉、完全な状態**」などを意味する。

CSRにおいては、誠実な企業活動が求められており、「**誠実な企業**」であることが、持続的発展の前提と考えられる。

PDCAサイクル (PDCA cycle)

- ① **Plan** (計画)
- ② **Do** (実施・実行)
- ③ **Check** (点検・評価)
- ④ **Act** (処置・改善)



この4段階を順次行って1周したら、最後のActを次のPDCAサイクルにつなげ、**螺旋を描くように一周ごとにサイクルを向上(スパイラルアップ)**させて、**継続的な改善**をしていくこと。